

檜前遺跡群

－近隣公園整備事業に伴う発掘調査－



2009年11月

明日香村教育委員会



調査区全景(南東から)



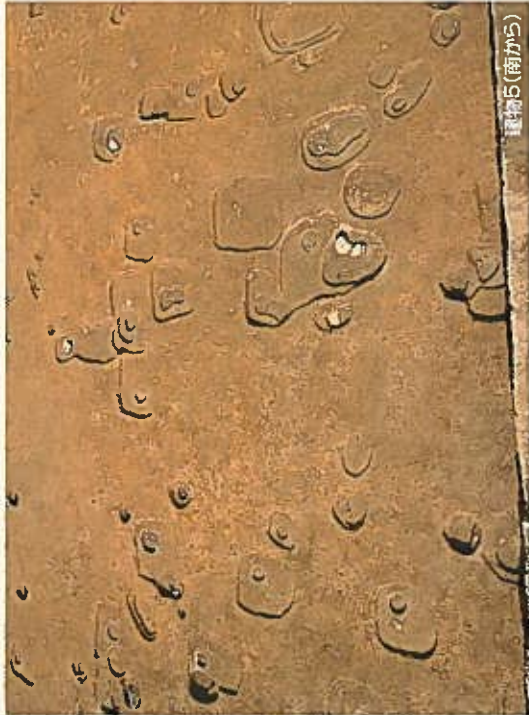
建物1(南から)



建物3(南から)



調査区東側(南西から)



建物5(南から)



調査区西側(南東から)



調査区全景(上から)

ひの くま い せき ぐん 檜 前 遺 跡 群

1.はじめに

今回の調査は近隣公園整備事業に伴う発掘調査です。檜前遺跡群は檜隈寺がある丘陵部の南側、谷を一つ挟んだ丘陵頂部の平坦面に広がります。この遺跡の発掘調査は、国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区の整備に伴う調査として平成19年度に始まり、奈良文化財研究所、奈良県立橿原考古学研究所、明日香村教育委員会の3者がそれぞれ地区ごとに調査を行っています。これまでの村教委の調査では、今回と同じ尾根上で7世紀後半を中心とした掘立柱建物群が検出されており、今回の調査でも同様の遺構が検出される可能性が考えられました。調査区総面積は合計で約925㎡です。

2.主な検出遺構

今回の調査では7世紀後半と考えられる掘立柱建物を6棟検出しました。特徴的な建物としては、調査区東辺で検出した南北4間以上×東西2間で、間仕切がある建物1や、南北4間以上×東西2間で、南側および東西の、少なくとも三面に庇が付き、四面庇付の建物になる可能性がある建物3などがあります。

3.主な出土遺物

今回の調査では、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、陶器、瓦、石材などが出土しました。

4.まとめ

今回の調査では、7世紀後半を中心とした掘立柱建物群を検出しました。地形的にみた場合、昨年の調査区よりも今回の調査区の方が平坦面を確保できる立地であることから、遺跡の中心は今回の調査地周辺と考えられます。その中でも建物3は少なくとも三面に庇の付く建物で、この遺跡の中では中心的な建物である可能性があります。

遺跡の性格については、昨年の調査同様に、瓦の出土が少なかったことなどから、檜隈寺の造営と時期は重なるものの、寺院に直接かかわる施設とは考えにくく、庇付建物や間仕切のある建物があることから、居住空間として利用されていたことが考えられます。檜隈寺跡のすぐ南側、丘陵頂部の平坦面を利用して、寺の伽藍が整う頃と、ほぼ同時期に建物が建てられていることなどから、今回検出された建物群は、当時の檜隈地域を本拠としたといわれる東漢氏との関連性が注目されます。